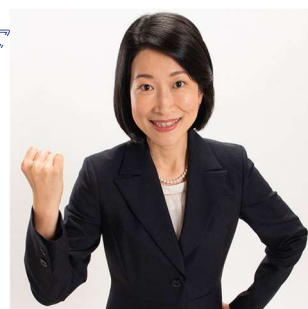




新防災アプリと災害情報受信機の貸し出し状況

「防災行政無線(屋外スピーカーで発信される区の情報)が聞こえない。夕方など定例の放送以外に放送される内容が気になるけれど、何を言っているのかわからない。」と区民の皆さんから度々伺います。区は、今年度中に区内全てのスピーカーをデジタル対応に変更する予定で進めています。スピーカーの方向を調整するなどしていますが、場所によってはまだ聞き取りづらいところもあります。

防災アプリダウンロード QR コード
android ↓ iOS ↓



放送内容は「荒川区防災アプリ」やホームページ、メルマガ(要登録)などで確認できます。旧防災アプリのダウンロード数は 23,000 件をこえていましたが、リニューアルしたアプリは現時点では 5,100 ダウンロードとなっています。

今年 8 月から非課税世帯の高齢者や、障がい者を対象にした防災情報受信機貸与が始まりました。今のところ 60 件の申請・貸与に留まっています。貸し出しが決まった方には、機材と使い方のマニュアルをセットで郵送します。

区は今年度 300 台の貸出を想定していますが、まだ 1/5 程度の貸し出し状況です。福祉部などと連携し、該当の方にお知らせしているようですが、「災害情報受信機」を必要としている方はもっといるのではないのでしょうか。決算特別委員会でアプリの周知と受信機を借りやすい体制を整えること、借りた方への丁寧な説明とフォローを要望しました。

<貸与対象>

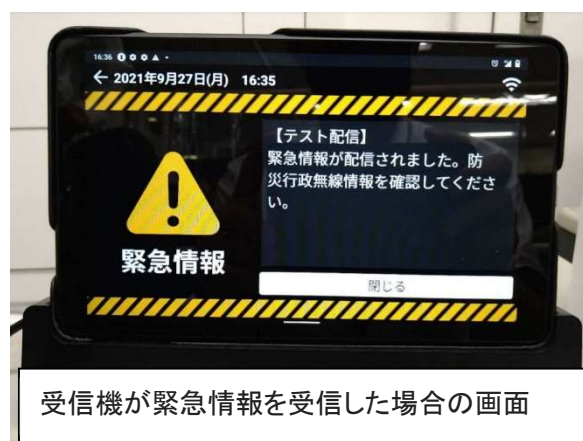
聴覚障がい者がいる世帯、視覚障がい者がいる世帯、世帯全員が非課税かつ 65 歳以上のみの世帯のうち、スマホを保有していない世帯

<貸与予定台数> 550 台 (今年度300台)

<貸与機器> 8 型タブレット(横 20.5 cm×縦 12.5 cm)

【問合せ】

区民生活部防災課 電話:03-3802-3111(代表)

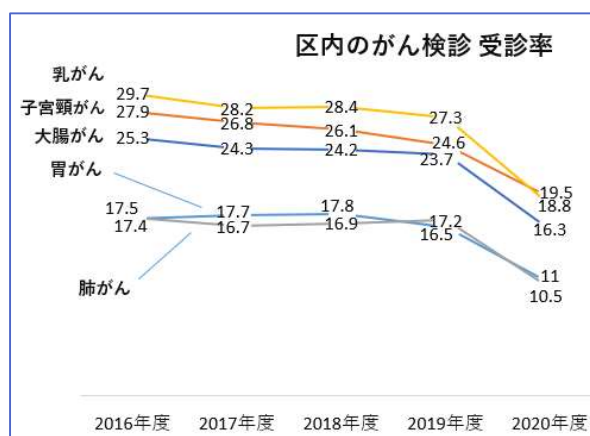


受信機が緊急情報を受信した場合の画面

がん検診を受けましたか

荒川区のがん検診受診率は例年それぞれ 17~30%程度で、高い水準とはいえません。

2020 年度は緊急事態宣言発令を受け、4 月 11 日~7 月 31 日まで休止。その後、密を避けるため 1 グループあたりの人数を減らして実施した影響に加え、新型コロナで受診控えもあり受診者が減少、2019 年度に比べ大幅に落ち込みました。



肺がん 10.5%・胃がん 11%・大腸がん 16.3%・子宮頸がん 19.5%・乳がん 18.8%と、すべての検診が 10%台にとどまりました。

全国的にも受診者は 19 年度と比べ 3 割減で、日本対がん協会は「最大 2,100 人程度ががんを発見されなかった恐れがある」としています。区内でも、毎年 70~100 人程度が検診でがんが発見されていますが、20 年度は 26 人と大きく減少。50 人以上のがんが見過ごされている可能性もあります。

コロナも心配ですが、がん検診や健康診断がまだの方はぜひ受けましょう。

		2019年度	2020年度
胃がん (X線健診)	受診者数	9,979	5,611
	要精密	215	156
	がん発見者	3	0
肺がん	受診者数	13,968	8,479
	要精密	157	132
	がん発見者	10	3
大腸がん	受診者数	18,237	12,599
	要精密	1,074	756
	がん発見者	28	10

がん検診でのがん発見者数

2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
91	79	93	106	96	73	26



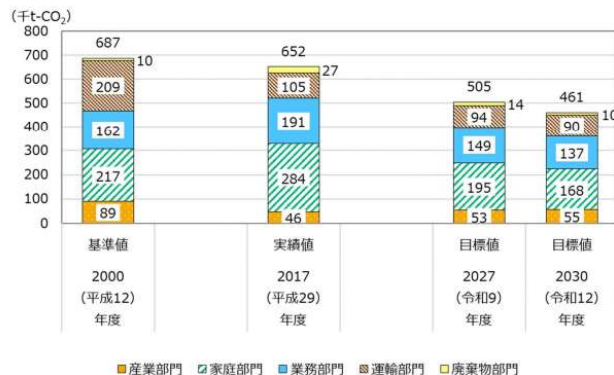
荒川区が2050 温室効果ガス排出ゼロを宣言

区の削減目標は2027 年までに24%削減

荒川区は、「2050年温室効果ガス排出ゼロ（ゼロ・カーボンシティ）」を宣言、「低炭素社会」から「脱炭素社会」を打ち出しました。今行われている9月会議に区の環境基本条例の「低炭素社会」を「脱炭素社会」に改正することも提案されています。削減目標を2027年度までに2000年度比で24%削減するとしています。

●CO₂排出量の削減目標

部門	2000 (平成12) 年度 【基準値】	2017 (平成29) 年度 【実績値】	2027 (令和9) 年度 【削減目標】		2030 (令和12) 年度 【削減目標】	
	排出量 (千t-CO ₂)	排出量 (千t-CO ₂)	排出量 (千t-CO ₂)	削減割合 (基準年度比)	排出量 (千t-CO ₂)	削減割合 (基準年度比)
産業部門	89	46	53	-41%	55	-38%
家庭部門	217	284	195	-10%	168	-22%
業務部門	162	191	149	-8%	137	-15%
運輸部門	209	105	94	-55%	90	-57%
廃棄物部門	10	27	14	+38%	10	0%
合計	687	652	505	-26%	461	-33%



※：小数点以下を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

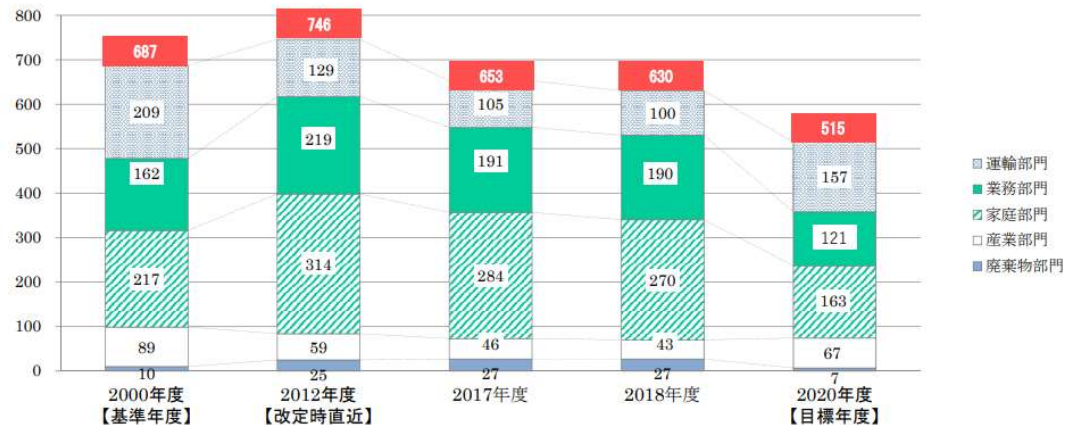
大規模駅前再開発での二酸化炭素排出は「除く」の？

西日暮里駅前再開発は、住宅を除き、3万㎡の商業床などでCO₂排出削減対策を実施して年間4089トン。1000戸の排出量は、一世帯年間3トンとすると3000トン。合計7000トンを超えます。三河島駅北地区は開発規模9万㎡で、CO₂排出は非公表です。西日暮里との対比で試算すると1万㎡の商業床などで約1000トン、760戸の住宅で220トン以上、合計約3000トン。2つの再開発だけで年間約10000トン排出になります。荒川区の年間CO₂排出は、2017年で65万2千トン、これを2027年には年間50万5千トンまで削減することを目標にしています。

開発も、エネルギー消費量・温室効果ガス排出など環境アセスを実施し、区の温室効果ガス削減目標に見合った計画に見直すべきです。

6 荒川区のCO₂排出量の推移

(単位：1000t/CO₂)



出典：オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」

荒川区の二酸化炭素排出の44%が家庭、残り56%が業務、産業、運輸産業廃棄物などです。約半分が家庭部門、そこでの脱炭素に向けた取り組みは、節電、節約、交通手段は公共交通や自転車、3Rの実践など限られています。もちろん生活様式の転換も大事です。

区民への啓発とともに、やはり区内最大の事業所・荒川区の取り組みが重要です。

区の全事業で、2050年ゼロエミッション宣言を行動で示し、区民と国内外に発信することが大事です。この間求めてきた公共施設の照明のLED化をはじめとした省エネとともに、公共施設、公共事業、自治体業務でどれだけ二酸化炭素を削減できるかなど、区としての脱炭素化の目標を示すべきです。

3R(スリーアール)とは？

【リデュース(Reduce)】

無駄なごみの量をできるだけ少なくすること

【リユース(Reuse)】

一度使ったものをごみにしないで何度も使うこと

【リサイクル(Recycle)】

使い終わったものをもう一度資源に戻して製品を作ること

ゆずります情報「リサイクルひろば」

家庭で不用になった品物を、必要とする方へ譲っていただくため、情報を提供している掲示紙です。出品情報はホームページの「リサイクルひろば：新着情報」をご覧ください。9月下旬には、小学館の図鑑NEOシリーズ5冊が3,000円出ていましたよ。

問合せ：環境清掃部清掃リサイクル推進課啓発指導係
電話番号：03-5692-6697

定例★法律相談 密を避けるためにご予約ください

日時：10月15日(金) 18:30~20:00

会場：北村あや子事務所 TEL&FAX: 03-3894-6668

くらし・仕事のお悩み…ひとりで悩まず、ご相談ください。

弁護士と北村が相談をお受けします。

お急ぎの場合は法律事務所の相談日などをご案内します。

生活相談は随時受け付けています。困ったときにはいつでもどうぞ。

